

心からのご寄付を ありがとうございました

12月18日～1月14日

村田充子	現金	1,000円
寺田孝一	現金	300,000円
TDK成田工場テクニカルセンター		
	現金	300,000円
栗林茂雄	現金	1,000円
高津幸夫	現金	5,000円
山田幸子	現金	8,000円
山崎久江	現金	5,000円
徳武宏治	現金	2,000円
鈴木優子	切手	225円
霞友会館	現金	6,255円
(財)ライオンズ日本財団	現金	2,000,000円
福島県骨髄バンク推進連絡協議会		
会津支部(ピアノ三重奏)		
	現金	278,107円
鈴木征子	現金	50,000円
佐藤さち子患者支援基金		
丸山陽子	現金	5,000円
山崎久江	現金	5,000円
田口芳子	現金	10,000円
松浦登志子	現金	5,000円

あやちゃん基金		
山崎久江	現金	5,000円
		(敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 566655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髄バンク推進連絡協議会

創意性を発揮した取り組みを!

～移植1000例達成記念キャンペーン～



全国協議会作成のメモ帳

「骨髄移植千例達成記念全国一斉キャンペーン」を実施する二月九日が目前に迫ってきました。全国の開催ヶ所数は、百ヶ所を超える見込みですが、中でも新潟は三十六ヶ所です。開催内容も、甘酒のサービスを検討している福島、和太鼓の演出をバックに行う埼玉(川越)などの情報も届いており、各地で創意性を発揮した取り組みがされるものと、期待が高まっています。

なお、配布物は財団作成のチラシ(二十万枚)とボールペン(十万本)に加え、hideコンサートでの募金活動による寄付金で作成するメモ帳(八万冊・写真)も送付します。各地のマスコミ対策も積極的に行って頂き、大いに盛り上がった一日にしてください。

医学会にて 講演発表



昨年十二月十九・二十日に岡山市で開催された第十九回日本造血細胞移植学会にて講演の機会を得ました。一昨年は骨髄移植研究会の名称でしたが名称を変更して学会に格上げになりました。今年度全国協議会としても会員登録をしました。六分間にスライド十枚という短い内容でしたが約百五十名の移植臨床医を前に非血縁者間造血幹細胞移植の今後についてと題して講演。全国協議会が進めている患者支援の一環である白血病フリーダイヤルや佐藤さち子患者支援基金の紹介をする一方、

GLAY コンサート 募金活動盛況

国際化推進として過去三回主催開催してきた国際シンポジウム、海外骨髄バンクへの派遣等を報告しました。また検討課題であった台湾骨髄バンクへのドナー検索受付に関しては厚生省・財団関係者と協議中のため、現在三者での前向きに検討中とアナウンスしました。講演後、財団高久副理事長や小寺中央調整委員長からアジアの骨髄バンクとの提携を積極的に進める旨の発言を頂きました。尚、大谷貴子副会長も「癌治療とQOL」骨髄移植後の長期生存例におけるQOL」と題したセミナーで講演し大きな反響を呼んでいました。

(事務局長・三田村)

人気ロックグループGLAYの全国コンサートツアーでの骨髄バンク募金活動がライオンズ日本財団と共に進められています。これはhide(X-JAPAN)に共感したGLAYが同様の活動を去年十二月八日から始めたものです。ライオンズ日本財団と全国のボランティアが

ライオンズ日本財団に 感謝状贈呈



海部会長より加藤理事長(後姿)へ感謝状贈呈

昨秋行われたhide(X-JAPAN)コンサートにおける募金活動による五八五万円の寄付がライオンズ日本財団から全国協議会にありました。このご寄付に対する感謝状

が、一月十三日都内のホテルで行われたライオンズ日本財団の新春賀詞交換会で海部幸世会長から加藤正見財団理事長に贈呈されました。またこの席で、十二月三十日と三十一日に東京ドームで行われたX-JAPANのコンサートでの募金活動による二百萬円のご寄付を全国協議会に頂戴しました。

台湾骨髄バンク ドナー検索 財団が4月から 実施の予定

全国協議会では台湾骨髄バンクのドナー検索窓口を開設すべく準備を進めてきました。全国協議会としては、厚生省および財団に台湾との提携に前向きな姿勢が見られないことから、緊急避難的措置として進めてきたものです。しかし、こうした状況を厚生省により好ましくないとの見解が出され、厚生省と財団および全国協議会との三者協議の場が持たれました。そして一月十一日に財団が主体となり今年四月より台湾と相互のドナー検索を実施したいとする意向が表明されました。財団の業務として行うには関係機関との調整や理事会での承認をこれから得ることになるとのことです。なお、これまでに全国協議会が入手した情報や、台湾サイドとの合意事項などはすべて財団に提供するとともに、今後も協力を推進することでご留意しました。

こうしたライオンズ日本財団からの様々な形でのご寄付が今後も続くこととなります。



1月11日、日本武道館での募金活動(海部会長とライオンズの方たち)

第56回運営委員会開かれる

一月十九日、全国協議会事務局で運営委員会が開かれました。

二月二十二日、二十三日千葉県白子町「三井白子荘」その他の地区も現在企画中です。各地の団体にお問い合わせ下さい。

●インターネット上にホームページを近く開設するにあたり、本格的な準備に入ることになりました。

●97全国骨髄バンクボランティアの集いin新潟大会
五月十七日(土) 十四時〜記念講演等
五月十八日(日) 九時〜総会
新潟ユニゾンプラザ(新潟市)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする 骨髄バンクNOW

【12月末現在検査済みドナー登録者】	78,867人
【12月末現在患者登録者】	4,727人
【12月末現在移植件数】	978例

★骨髄バンクへのお問い合わせは★
フリーダイヤル0120-377-465



“患者家族電話相談”
白血病フリーダイヤル
バンクにトウロク
0120-892-106
毎週土曜日10時〜16時
※医師に言えない悩み事などもどうぞ。

各地のたより

各地のたよりを 写真を添えて お寄せください。

釧路 作品コンクール 表彰式と演劇発表会



お芝居も「ナイスシュート」

一月二日(日) 釧路市生涯学習センター大ホールにて行われました。この作品コンクールは昨年十月に釧路市及び釧路町の全小中学校を対象に行ったもので当会と地元六つのライオンズクラブが「幸平ナイスシュート」を千冊寄贈し、それを題材に感想文の部、ポスターの部、標語の部と三部門を設けて作品を募集したものです。この表彰式の後、いよいよ演劇「幸平ナイスシュート」の開幕。その頃には会場は約六百名の観客で埋めつくされました。この演劇は市内の劇団「てまり座」と桜ヶ丘中学校の一年生十三名が四ヶ月かけて練習を重ね仕上げたものです。一時間二十分の上演時間があったという間に過ぎてしまうほど観客を引きつけたまま演劇の発表会は大きな感動を持って終了しました。会場内はどの顔も感動の涙、涙でフィナーレの全員での合唱は観客席から自然に拍手が鳴り始め、感動は会場全体を包み込みました。その模様はNHKとHBCによって北海道全域に放送されました。(続木)

宮城 金色のクジラ上映会



振り出し物がいっぱい

昨年、宮城骨髄バンク登録推進協議会は設立五周年という節目の年にあたり、六月には仙台支部も発足し、さまざまな活動をしてきました。そして十二月には、「金色のクジラ」の上映会を開催してました。
「金色のクジラ」製作支援については、映画「金色のクジラ」を作る宮城の会を結成して製作協力会員募集等、準備を進めてきました。上映会がクリスマスと重なったため不安もありましたが、映画はマスコミ等でも大きく取り上げられ大きな反響を呼びました。来場者の大半が家族連れの方で、とくに小中学生が多く見に来てくれたことは、これからの骨髄バンクにとって大きな力になるのではないかと思います。会場にはアンケートを記入してもらおうスペースを設けたのですが、大盛況のため、上映後は書く順番を待つ人たちが黒山の人だかり状態になってしまいました。
今回の「金色のクジラ」は、「あやちゃんの贈り物」展に続く、市民の心の奥底に訴える企画であったと思います。これからも、単に頭で理解するだけでなく、心で感じ取ってもらえるような運動を考えていかなければと思っています。(四方田)

東京 四百年の歴史！ 世田谷ポロ市に参加

このポロ市は世田谷区の無形民族文化財に指定されているなんと四百年の歴史を誇るものです。ポロ市は十二月と一月のそれぞれ十五日と十六日に開かれます。昨年一月からポロ市での

静岡 感動と勇気を ありがとう

静岡骨髄バンクを推進する会は県と共催で「きせひろゆきくん絵画展」を開催いたしました。まず、県西部の浜松市で移植推進月間の十二月二十三日より二十五日まで行いました。きせひろゆき君は五歳九ヶ月でその生涯を閉じるまでに五千点もの絵

を残してくれました。ご両親の御好意により、その内の二百点を展示することができました。会場には連日四百人近くの来場者があり、新聞・テレビでも大きく取り上げられました。自身自身病気の友達の思いやる気持ちのじみ出たひろゆき君の絵は、多くの方々に感動と勇気を与えました。人の生命の尊さと骨髄バンクの必要性を強く印象付けた絵画展でした。同絵画展は一月二十三日より静岡伊勢丹でも開催致しました。

奈良 行政と協力して バンク運動推進



冬はやわらかい日差しの中、奈良県健康対策課と協力して「骨髄バンクフェスティバル in Nara'96」を開催しました。シンポジウムの内容は非常に分かりやすく、特に関西では人気のニュースキャスター辛坊治郎氏と当会顧問の成田奈良県立医大教授を中心としたパネルディスカッションでは、骨髄移植を進める上での色々な問題点や、疑問点に対して、まるで漫才を彷彿とさせる面白さを含みながらも正確な情報が参加者に

伝えられました。パネルディスカッションに先立ち行われたスライド芝居「金色のクジラ」では予定していた矢崎由美子さんが喉の不調で急遽代役となった正道君(小四)がお母さんを凌ぐ熱演で会場を埋めた二百五十人の聴衆を芝居の中に完全に引き込んでしまいました。なんども涙ぐみながら映画を見たりしているのにまた違った味わいがあり、目頭があつくなる場面もありました。

高知 会長の骨髄バンク公演 日医生涯教育講座認定



高知県女医会(会員・一三六名)山口泰子会長は、骨髄バンク講演を下司孝慶会長に依頼され、平成九年一月十二日パレスホテル新館で開催されました。この医学講演は、「日本医師生涯教育講座」と認定されています。

高知県女医会(会員・一三六名)山口泰子会長は、骨髄バンク講演を下司孝慶会長に依頼され、平成九年一月十二日パレスホテル新館で開催されました。この医学講演は、「日本医師生涯教育講座」と認定されています。

岐阜 マイ・ルーム試写会

一月十五日「成人の日」、若者でにぎわう岐阜柳ヶ瀬のCINEXIで、骨髄移植と家族関係をテーマとし、人間愛と命の問題を扱った映画「マイ・ルーム」の試写会が行われました。二十四名のボランティアが集

まず、約三百名の観客の皆さんをお迎えするとともに、パンフレット(骨髄バンクのこと本当に知っていますか)を配布しました。



試写会の前にはスクリーンの前で、岐阜新聞主催のトークショーがボランティア代表、元患者(高校生、野田聖子(衆議院議員)、医師(ライオンズ代表)の四名で行われました。骨髄移植から骨髄バンクの現状、さらには人間愛についての討論で、映画を見る前の予備知識としてとても有意義なものになったと思います。

ところで、「マイ・ルーム」という映画、二十年来疎遠になっていた姉妹の姉が白血病と診断され、骨髄移植の血液検査のために、妹が問題を抱えた息子を連れ、父親や叔母がいる故郷へ戻ってくる。そこでの出来事を通して、みんなの心の変化を描いています。年齢も性別も環境もすべて違う私たち、物事に対する考え方、幸せの感じ方も違います。でも「あなただけじゃないよ」って励まされる思いがしました。

栃木 マロー・パートナーズ inとちぎ

十二月二十三日、来賓の高久文磨自治医科大学学長の祝辞、共催の県より瀬上清貴保健福祉部長挨拶で始まった第八回骨髄バンク支援栃木県民の集いは、

まず劇映画「金色のクジラ」が上映されました。会場の栃木県総合文化センター・サブホールは約三百名の入場者でほぼ満席で、これまで三年間の主催行事の中で最高の入場者を集めました。上映中、沢山の方々が涙されました。午後の部は県立鹿沼商工高校音楽部のバンド演奏と体験発表。骨髄移植を経験した福島さん、患者家族の高橋さんのお話は胸に迫りました。提供者の種子さんの気負わず淡々とした語り、命への深い慈しみに満ちていました。二名の手話通訳者がボランティアとして参加され、聴覚障害者の方々も最後まで聞いてくださり、中には演奏に合わせて手話で歌う姿も見られました。演奏の生徒とOBからは参加できて良かった、一般参加者からは感動した、自分も手伝いたいなどの感想がありました



後援する骨髄移植体験者の福嶋見子さん(手話・藤田均子さん)

十二月二十三日日本骨髄バンク設立五周年キャンペーンとして鹿児島市の繁華街「天文館」にて「生命を救えるのはあなたかもしれない」をスローガンに「クリスマスに骨髄バンクに登録を」と呼びかけました。参加者は子供達を含めて二十五名。クリスマスと年末の買い物客でごった返す街中で、ドナー経験者、ドナー登録者、医学部学生などが各々五分間、骨髄バンクへの理解と協力をリレートークしました。(牧園)



スタッフは大いに勇気付けられ次回に向けて奮起しています。この模様は一月五日に十五分の報道番組として地元ラジオ局栃木放送で紹介されました。

鹿児島 クリスマス キャンペーン

フジテレビを見れば見ぬふりは
やまもごまんの

フジテレビ